様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：８２６１１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2021
課題番号：２０Ｋ２２２８０

研究課題名（和文）ICTを用いた効果的な心理療法提供の社会実装に向けた研究

研究課題名（英文）Research for social implementation of effective psychotherapy provision using ICT

研究代表者
大井　瞳（OI, Hitomi）

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・認知行動療法センター・リサーチフェロー

研究者番号：００８８５２０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT）を用いた遠隔心理療法の提供に関する基盤整備のために、尺度の日本語版作成、インタビュー調査を行った。また、遠隔認知行動療法の役割と限界についての文献研究を行い、遠隔認知行動療法が支援の提供可能性を広げる一方で、デジタルデバイド、クライエントの病態や障害、緊急対応の点からは適用の限界が生じうることを示した。遠隔心理療法の役割と限界を認識したうえで、「誰一人取り残さない」よう心理的援助を提供することの重要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
COVID-19のパンデミックに伴いICTを用いた心理療法は発展しつつあるが、日本での社会実装はいまだ不十分である。これらの背景を踏まえて本研究では、心理療法を社会実装するための基盤構築として、尺度の作成、インタビュー調査、文献研究を行った。本研究の研究成果は、効果的な心理療法をより多くの方に適切に提供するために重要な示唆を与えるものである。

研究成果の概要（英文）：In this study, I developed a Japanese version of the scale and conducted interviews to develop the infrastructure for the provision of telepsychotherapy using Information and Communication Technology (ICT). I also conducted a literature review on the roles and limitations of telecognitive-behavioral therapy, and showed that while telecognitive-behavioral therapy expands the possibilities of providing support, there may be limitations in its application in terms of the digital divide, client pathology and disability, and emergency response. Recognizing the roles and limitations of telepsychotherapy, the importance of providing psychological support is highlighted to ensure that "no one is left behind."

研究分野：臨床心理学

キーワード：遠隔心理療法　認知行動療法　ICT　不眠症　デジタルデバイド

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、ICT を用いた心理療法は、（１）居住地や身体的・精神的障害といった理由で医療機関に行くことが難しい患者や、（２）医療者を確保できない地方の医療機関と医療者が整備されている都市部の医療機関同士をつなぎ、サービスを提供できるという点から医療格差を縮小させる手段として社会実装が期待されている（Blaya et al., 2010）。加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ICT を用いた遠隔心理療法の提供が世界的に求められている（American Psychological Association, 2020）。ICT を用いたサービスに対する態度や ICT の親和性、使用頻度をアセスメントすることは遠隔心理療法を提供するうえで医療事故や治療効果の低減を防ぐために重要であると考えられる。しかし、日本ではそれらを査定する尺度が整備されていない。さらに、ICT を用いたサービスを日本で社会実装するための基盤はいまだ不十分である。

２．研究の目的

研究１　ICT を用いたメンタルヘルスサービスに対する態度を評価する尺度を作成する。
研究２　遠隔認知行動療法におけるセラピストの行動を評価する尺度を作成する。
研究３　ICT を用いた認知行動療法の利用に対する阻害要因や態度を検討する。

３．研究の方法

研究１　ICT を用いたメンタルヘルスサービスに対する態度を評価する尺度の作成

ICT を用いたメンタルヘルスサービス全般に対するサービス利用者、医療従事者の態度、デジタルスキルを評価するため、eTAP（ electronic-Therapy Attitudes and Process questionnaire: Clough et al., 2019a）、eTAP-T（ electronic-Therapy Attitudes and Process questionnaire-Therapistversion: Clough et al., 2019b）について、原著者から日本語版作成の許諾を得たのち、尺度作成・翻訳のガイドライン（COSMIN: Mokkink et al., 2010; Prisen et al., 2018; Beaton et al. (2000)）に則り、日本語版を作成した。パイロット調査の対象者は、不眠症の遠隔認知行動療法の対象者となったクライエントおよびセラピストとした。

研究２　遠隔認知行動療法におけるセラピストの行動を評価する尺度の作成

ICBT-TRS（Internet-delivered Cognitive Behaviour Therapy-Therapist Rating Scale: Hadjistavropoulos et al., 2018）、ICBT-UTBS（Internet-delivered Cognitive Behaviour Therapy-Undesirable Therapist Behaviours Scale: Hadjistavropoulos et al., 2019）について、原著者から日本語版作成の許諾を得たのち、尺度作成・翻訳のガイドライン（COSMIN: Mokkink et al., 2010; Prisen et al., 2018; Beaton et al. (2000)）に則り、日本語版を作成した。

研究３　ICT を用いた CBT の利用に対する阻害要因や態度の検討

文献研究およびインタビュー調査によって、ICT を用いた認知行動療法に対する態度や利用を妨げている要因について検討を行った。遠隔心理療法の阻害要因、促進要因として先行研究から示されている結果に基づき、インタビューガイドを作成した。インタビュー調査は、遠隔認知行動療法の対象者となったクライエントおよびセラピストを対象に、不眠症の遠隔認知行動療法の実施前後で行った。

４．研究成果

研究１　ICT を用いたメンタルヘルスサービスに対する態度を評価する尺度の作成

eTAP、eTAP-T の日本語版を作成し、第 25 回日本遠隔医療学会学術大会にて発表を行った。

研究２　遠隔認知行動療法におけるセラピストの行動を評価する尺度の作成

ICBT-TRS、ICBT-UTBS の日本語版を作成した。その結果を国内誌に投稿予定である。

研究３　ICT を用いた認知行動療法に対する態度や利用を妨げている要因の検討

文献研究およびインタビュー調査を行い、ICT を用いた認知行動療法に対する態度や利用の促進要因・阻害要因について検討を行った。ビデオ通話システムを用いた遠隔での認知行動療法でもコミュニケーションの質は担保されることが実態として明らかになった。また、遠隔心理療法が難しい方へのケアを行うことや遠隔心理療法の認知度を高めることについての重要性も示された。

加えて、遠隔心理療法に関する尺度と社会実装の必要性について述べた scoping review を国際誌に投稿中である。

引用文献

American Psychological Association (2020). Guidelines for the practice of telepsychology. Retrieved from https://www.apa.org/practice/guidelines/ telepsychology (September 30, 2020)

Beaton, D. E., Bombardier, C., Guillemin, F., & Ferraz, M. B. (2000). Guidelines for the process of cross-cultural adaptation of self-report measures. *Spine*, *25*(24), 3186–3191.

Blaya, J. A., Fraser, H. S. F., & Holt, B. (2010). E-health technologies show promise in developing countries. *Health Affairs*, *29*(2), 244–251.

Clough, B. A., Eigeland, J. A., Madden, I. R., Rowland, D., & Casey, L. M. (2019a). Development of the eTAP: A brief measure of attitudes and process in e-interventions for mental health. *Internet Interventions*, *18*(August 2018), 100256.

Clough, B. A., Rowland, D. P., & Casey, L. M. (2019b). Development of the eTAP-T: A measure of mental health professionals' attitudes and process towards e-interventions. *Internet Interventions*, *18*(March), 100288.

Hadjistavropoulos, H. D., Schneider, L. H., Klassen, K., Dear, B. F., & Titov, N. (2018). Development and evaluation of a scale assessing therapist fidelity to guidelines for delivering therapist-assisted Internet-delivered cognitive behaviour therapy. *Cognitive Behaviour Therapy*, *47*(6), 447–461.

Hadjistavropoulos, H. D., Gullickson, K. M., Schneider, L. H., Dear, B. F., & Titov, N. (2019). Development of the Internet-Delivered Cognitive Behaviour Therapy Undesirable Therapist Behaviours Scale (ICBT-UTBS). *Internet Interventions*, *18*(April), 100255.

Mokkink, L. B., Terwee, C. B., Patrick, D. L., Alonso, J., Stratford, P. W., Knol, D. L., ... & De Vet, H. C. (2010). The COSMIN checklist for assessing the methodological quality of studies on measurement properties of health status measurement instruments: an international Delphi study. *Quality of life research*, *19*(4), 539-549.

Prinsen, C. A. C., Mokkink, L. B., Bouter, L. M., Alonso, J., Patrick, D. L., de Vet, H. C. W., & Terwee, C. B. (2018). COSMIN guideline for systematic reviews of patient-reported outcome measures. *Quality of Life Research: An International Journal of Quality of Life Aspects of Treatment, Care and Rehabilitation*, *27*(5), 1147–1157.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中島俊、大井瞳、井上真里	４．巻 58
２．論文標題 テレビ会議システムを利用した不眠症領域の心理療法	５．発行年 2021年
３．雑誌名 内科臨床誌medicina	６．最初と最後の頁 792-795
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1402227624	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大井 瞳、中島 俊、宮崎 友里、井上 真里、堀越 勝	４．巻 47
２．論文標題 持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）としての遠隔認知行動療法の役割と限界	５．発行年 2021年
３．雑誌名 認知行動療法研究	６．最初と最後の頁 119～126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24468/jjbct.20-027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 大井瞳、高階光梨、宮崎友里、井上真里、中島俊、久我弘典、堀越勝
２．発表標題 デジタル技術を用いたメンタルヘルスへの介入に対する態度の評価ー評価尺度eTAP，eTAP-Tの日本語版作成ー
３．学会等名 第25回日本遠隔医療学会学術大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関